【授業科目】血液学　　Hematology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
高崎 昭彦	1年次 前　期	必 修	1	15	講 義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／血液中には、血液細胞のみならず、様々な因子が含まれている。それぞれの細胞や因子がバランスよく存在し、機能することで、私たちは生きていくことができる。そのバランスが崩れる、つまり様々な細胞や因子の数が増加する、または減少するとき、さらには、機能が低下する、または活性化することで、私たちの体は「病気」という状態になっていく。本講義では、血液とは何か、血液の働き、そして血液に関連する病気が発症するメカニズムについて理解してもらう事、興味を持ってもらう事を目的とし講義する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／各講義前の小テストは次回講義に返却及び、解説する。定期試験について血液検査学Ｉでﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行う。
実務経験に関する 授業内容	一般病院で血液検査の実務経験を持つ教員により、血液検査を実施する臨床検査技師として必要な血液の基礎知識等を教授する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①　血液とは何かを説明できる。 ②　血液の細胞成分である赤血球、白血球、血小板の役割を説明できる。 ③　貧血について説明できる。 ④　1次止血について説明できる。
時間外学習に必要な 内容・時間および 学習上の助言	病気がみえるvol.5及び、vol.6を参考書として推薦する。血液疾患のメカニズムについて分かりやすく記載しているため、基礎を理解しながら興味深い病気のことを詳しく学ぶことができる。第1～8回事前学習：指定の教科書を事前に読んで学習する（各120分）。 第1～8回事後学習：各回の授業内容を復習する。要点をまとめることで確認し、分からなかったところは調べて教員に質問する（各60分）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる（各60分）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第 1 回　血液の成分 血清と血漿の違い，血球の産生 第 2 回　赤血球の形態 赤血球の成熟過程，赤血球の生化学 第 3 回　ヘモグロビンの代謝 第 4 回　鉄代謝、ビタミン B12 及び、葉酸の代謝 白血球の種類、役割、細胞表面抗原 第 5 回　白血球の産生と機能 第 6 回　血小板の産生と崩壊 第 7 回　血小板 第 8 回　止血機構 全て 高崎
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 前回授業の復習小テスト30%、定期試験70%、授業態度も加味し総合的に評価する。
教科書	奈良信雄著『最新臨床検査学講座 血液検査学』 医歯薬出版株式会社
参考書等	『病気がみえる　vol.5血液、vol.6　免疫・膠原病・感染症』 メディックメディア
学生への メッセージ	血液は体中の細胞へ栄養分と酸素を運んでいるため、その血液を検査することで様々な知見が得られる非常に興味深いものである。探究心を持って楽しく学ぼう。